ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.14

令和元年度整備事例集

私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる

掲載事例

①歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり（金沢区）
②鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング（鶴見区）
③世代を超えた集いの場にするための拠点づくり（南区）
④太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション（港北区）
④は平成29年度整備

ふ-しん【普請】「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

整備事例 2

鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくりまちのリビング（鶴見区）

～地域に循環を生み出す 230cafe（つみれカフェ）

鶴見駅周辺は喫茶店や居酒屋が多く、賑わいのある街ですが、日中に市民が活動できる集いの場が多くありません。鶴見駅西口には平成22年にまち普請で整備された「鶴見ふれあい館（令和2年9月閉館）」がありましたが、東口には公共施設を除きそのような施設がなく、つみれプロジェクト実行委員会の須田さんは「多世代で気軽に集まれる場所があるといい」と考えていました。

座敷もあり乳幼児連れでも使いやすい。小箱ショップも併設し特産品の委託販売も行なっている

平成29年に須田さんは地域の子育てママ支援グループと一緒に、地域の拠点づくりを目的にまち普請に応募しました。二次コンテストを通過しましたが、鶴見駅周辺は家賃が高額で最終的に条件に合う物件が見つからずに辞退することになってしまいました。その後、まち普請の応募をあきらめていましたが、これまでの活動でつながったビルのオーナーから「アパートをビルに建て替えるけど、2階のフロアで活動してみない？」と声をかけられます。「これを逃がせば、次のチャンスはない！」と考えた須田さんは再度まち普請に挑戦することを決めました。

しかし、以前一緒にまち普請に応募したグループは他の活動を始めていたので、新しくメンバーを集めることになりました。鶴見区で外国人の子育て支援の仕事をしていた福徳さんは、ご自身も近くに親や親せきがいない中での子育てに孤独を感じ、色々な人たちとつながりたいと思っていました。二人は商店街のイベントで知り合ったのですが、須田さんが拠点を整備しようと動いていることを知った福徳さんも、活動に参加するようになりました。そうやって集まったメンバーで立ち上がったのが、つみれ（つるみの みらいをつくる れんけい）プロジェクト実行委員会です。

一次コンテストでは、過去にまち普請で提案した「孤立した子育て・ひとりぼっちの子どもをなくす」という内容に、多様な国の人が住み、身の回りが多彩な国の文化で溢れているという鶴見の魅力を加えて提案しました。その後、二次コンテストに向けて地域との連携や近隣商店街での街頭インタビューを積極的に行い、メンバーが一丸となって提案内容を深めていったことで、見事二次コンテストも通過します。しかし、通過した後に待ち受けていたのが、活動の担い手の離脱です。一緒に活動をしていた若いメンバーが就職したり、別の活動を始めてしまったことで、須田さんと福徳さんは再度、一緒に活動するメンバーを探すことになりました。ビルが建設され、実際に整備に動き出すまでの期間を利用して、関わってくれる人を再び集め、整備計画や事業運営を急ピッチで検討し、遂に令和2年3月に230cafeは完成を迎えました。

DIYワークショップの様子。子どもも参加して棚などを手作りした

ところが、カフェのオープンを目前にして、新型コロナウイルスの感染拡大が本格化します。カフェのテーブルなどを手作りするワークショップは開催できましたが、その後は全くイベントができなくなり、当初予定していた事業も見合わせることになりました。どうやってカフェを維持していけばいいのか、二人は頭を抱えます。

そんな活動ができない中でも、230cafeを地域貢献の活動拠点として活用することになっていたパルシステム神奈川ゆめコープがカフェの維持

酵素講座の様子。地域の起業家の利用も増えており、応援し合う関係になっている

に協力してくれました。その他にも地域の企業との連携や、協賛という形での応援も生まれています。また、「横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業」(通称、サービスB)※2も実施することで、地域の民生委員さんが足しげくやってきて、カフェを宣伝してくれています。西口にあった鶴見ふれあい館を利用していた高齢者も230cafeに来てくれるようになりました。色々な人たちが、230cafeを介してつながり始めています。

230cafeは何かを始めたい人に場所の提供もしています。ビルの前に掲げていた看板を見て、「酵素づくり」で起業した人が酵素の講座を始めました。その姿を見て、230cafeを使いたいという声が他にも寄せられています。地域に拠点ができ、実際に使われることで自分の可能性を見つけることができる、そんな良い循環が生まれ、230cafeから新しい風が吹き始めています。

「アイデアはどんどんたまっている。動けるようになったら、色々と仕掛けていきたい」と語るお二人。230cafeが今後どんな風を吹かせてくれるのか、期待が高まります。

※2:ボランティアを始めとした地域住民が、要支援者等を対象とした介護予防・生活支援の活動を行う場合に、その活動に係る費用に対して、補助金を交付する制度。

鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり
まちのリビング(鶴見区)

整備主体…つみれプロジェクト実行委員会
整備場所…鶴見区鶴見中央4丁目7-15-201
整備内容…コミュニティカフェのキッチン等設備および内装
竣工時期…令和2年3月

「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設（ハード）を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、二段階の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最大500万円の整備助成金等を交付する事業です。

コンテストの年度 → **整備の年度**

自ら主体となって生活環境の整備をしたい市民グループ

→ 4月上旬～6月上旬 整備提案募集

ヨコハマ市民まち普請事業部会による選考
（学識経験者・まちづくり実践者・市民委員（公募））

7月上旬 一次コンテスト開催 → 9月中 活動懇談会 → 1月下旬 二次コンテスト開催

→ 市民自ら整備・維持管理を実施 整備助成金として最大500万円を交付

横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員（平成30年度選考委員）※所属は平成30年度時点

岡本 溢子	NPO法人さくら茶屋にししば理事長（まちづくり・市民活動）
男澤 誠	市民（公募委員）
河上 牧子	明治大学地域ガバナンス研究所客員研究員（都市政策）
川原 晋	首都大学東京※都市環境学部教授（市民主体の地域運営・まちづくり市民事業）※現在は東京都立大学
塩入 廣中	市民（公募委員）
菅 博嗣	（株）あいランドスケープ研究所代表取締役（花とみどり・公園緑地）
杉崎 和久	法政大学法学部教授（公共政策）
鈴木 やよい	NPO法人横浜市民アクト理事（まちづくり）

ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.14

令和元年度整備事例集

●発行　令和３年2月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10　TEL 045-671-2679　FAX 045-663-8641
●編集・デザイン　横浜市住宅供給公社
●デザイン・印刷　山陽印刷株式会社

あちこち・ドキドキ・ハマのまち 都市整備局

「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/

Webで検索 まち普請 検索

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
https://www.facebook.com/yokohama.machibushin

Webで検索 まち普請ひろば 検索